

第 1 6 章 看護

第 1 教科目標，評価の観点及びその趣旨	看 - 1
第 2 各科目の評価の観点の趣旨	看 - 1
第 3 原則履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例	看 - 2
基礎看護	看 - 2
第 4 単元の評価に関する事例	看 - 17
基礎看護	看 - 17

第 1 6 章 看護

第 1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに，国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てる。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
看護に関する諸問題について関心をもち，その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	看護に関する諸問題の解決を目指して思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，創意工夫する能力を身に付けている。	看護の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け，実際の仕事を合理的に計画し，適切に処理するとともに，その成果を的確に表現する。	看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，看護の意義や役割を理解している。

第 2 各科目の評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
基礎看護	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について関心をもち，看護の改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して看護活動を適切に判断し，創意工夫する能力を身に付けている。	日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け，実際の仕事を合理的に計画し，適切に処理するとともに，その成果を的確に表現する。	基礎看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，看護の意義と保健・医療・福祉における看護の意義や役割を理解している。
看護基礎医学	看護を行うために必要な医学と保健について関心をもち，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付けている。	看護を行うために必要な医学と保健に関する基礎的・基本的な知識を基盤として，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解を深め，その成果を的確に表現する。	看護を行うために必要な医学と保健に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解している。
成人・老人看護	成人・老人の看護に関する諸問題に関心をもち，その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	成人・老人の看護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，創意工夫する能力を身に付けている。	成人・老人の看護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け，実際の看護を合理的に計画し，適切に処理するとともに，その成果を的確に表現する。	成人・老人の看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，成人・老人看護の意義や役割を理解している。
母子看護	母子の看護に関する諸問題に関心をもち，その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	母子の看護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，創意工夫する能力を身に付けている。	母子の看護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け，実際の看護を合理的に計画し，適切に処理するとともに，その成果を的確に表現する。	母子の看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，母子の看護の意義や役割を理解している。

第3 原則履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

基礎看護

1 目標

看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させ、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、看護を適切に行う能力と態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について関心を持ち、看護の改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して看護活動を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	基礎看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、看護の意義と保健・医療・福祉における看護の意義や役割を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

基礎看護においては、原則として学習指導要領の内容の(1)のアやイなどの中項目を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。ただし、「(2)日常生活と看護」の「イ 食事」、「ウ 排泄」、「エ 姿勢・体位と運動」、「オ 睡眠と休息」、「カ 身体の清潔」、「キ 衣生活」については、これらの項目が人間の基本的欲求に伴う日常生活行動のうち、特に生理的欲求を満たすためのものであり、評価規準は共通して表すことができることから、一つのまとめりとして示した。したがって、イからキの評価に当たっては、評価規準及び評価規準の具体例の文中の「日常生活行動」及び「日常生活の援助」の文言を適宜、各項目名に置き換えて対応するものとする。

(1) 「(1)看護の意義と役割 ア 看護の対象の理解」

【学習指導要領の内容】

看護の対象は、身体的・精神的・社会的側面をもつ統一体としての人間であり、看護を行う場合には、これらの各側面を総合的に把握する必要があることを理解させる。

人間に共通する特性である基本的欲求や成長・発達の過程について理解させるとともに、対象の個別的な病状や心理状態、文化的・社会的な背景を把握して看護を行うことが重要であることを理解させる。

健康の概念について、世界保健機構(W.H.O)による健康の定義をはじめ、多様な健康観があることや、時代や文化に影響されることなどを学習させ、多様な見方があることを理解させる。

【「(1) ア 看護の対象の理解」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
看護の対象を身体的・精神的・社会的側面をもつ統一体として理解することに関心を持ち、人間の総合的な把握に向けて意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	統一体としての人間について思考を深めることができる。健康の概念について思考を深めることができる。	看護の対象について総合的なとらえ方を身に付け、その成果を的確に表現することができる。	人間の総合的なとらえ方や健康の概念に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、看護の対象を総合的に把握する必要があることを理解している。

【「(1) ア 看護の対象の理解」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
看護の対象を、身体的・精神的・社会的側面をもつ統一体として理解することに関心をもっている。	統一体としての人間について様々な資料を活用し、思考を深めることができる。	看護の対象を身体的・精神的・社会的統一体としてとらえ、表現することができる。	看護の対象を身体的・精神的・社会的統一体として把握する必要性を理解している。

<p>対象の理解に向けてこれらの各側面から総合的に把握しようと意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>人間の身体的・精神的・社会的側面について思考を深めることができる。</p>	<p>人間に共通する特性である基本的欲求や成長発達に関する知識を身に付けている。</p>
<p>人間に共通する特性や、対象の個性について把握しようと意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>多様な健康観を基に健康の概念について思考を深めることができる。</p>	<p>対象の個別的な病状や心理状態、文化的・社会的背景を把握して看護を行うことの重要性を理解している。</p>
<p>健康の概念について関心をもっている。</p>		<p>健康の概念に関する知識を身に付け、多様な健康観があることや、健康の概念が時代や文化に影響されることを理解している。</p>

(2) 「(1)看護の意義と役割 イ 看護の意義」

【学習指導要領の内容】

看護は、豊かな人間愛と職業倫理並びに科学的な知識に基づいて、人々が健康を保持・増進・回復し、あるいは安らかな死を迎えることができるように援助する専門職であることを理解させる。

看護の目的を達成するための看護者の働きについて学習させる。

看護の起源と専門職としての看護の歴史について学習させることにより現代の看護をより深く理解させ、看護の向上に寄与する態度を育てる。

【「(1) イ 看護の意義」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>看護の意義と変遷について関心をもち、看護の向上に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>社会の変化と看護の役割及び看護の在り方について思考を深めることができる。</p>	<p>看護の意義に基づいて、看護の在り方を考えることにより、自己の看護観を表現することができる。</p>	<p>看護の意義と変遷に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、専門職としての看護の役割を理解している。</p>

【「(1) イ 看護の意義」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>豊かな人間愛と職業倫理並びに、科学的な知識に基づいて、人々が健康を保持・増進・回復し、あるいは安らかな死を迎えることができるように援助する専門職としての看護に関心をもっている。</p>	<p>専門職としての看護者の働きについて思考を深めることができる。</p>	<p>専門職としての看護者の働きと現代の看護の在り方を考えることにより、自己の看護観を表現することができる。</p>	<p>看護の目的と機能及び看護の変遷に関する知識を身に付けている。</p>
<p>専門職としての看護者の働きについて意欲的に追究しようとする実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>看護の変遷から、現代の看護の在り方について思考を深めることができる。</p>		<p>看護は、豊かな人間愛と職業倫理並びに科学的な知識に基づいて行われる専門的な援助活動であることを理解している。</p>
<p>看護の起源と専門職としての看護の歴史について関心をもち、看護の向上に寄与する実践的な態度を身に付けている。</p>			<p>看護の変遷に関する学習を通して現代の看護をより深く理解している。</p>

(3) 「(1)看護の意義と役割 ウ 看護活動の分野」

【学習指導要領の内容】

家庭，地域，学校，職場などの様々な場において看護活動が行われていることや，それらの看護活動の特徴を学習させることにより，看護の役割を理解させる。

保健医療施設や福祉施設などの種類と役割の概要について，看護活動とのかかわりにおいて学習させる。

【「(1) ウ 看護活動の分野」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
看護活動の分野に関心をもち，保健・医療・福祉における看護の役割を意欲的に追究しようとする実践的な態度を身に付けている。	様々な場における看護活動及び看護の役割について思考を深めることができる。	保健・医療・福祉における看護の役割について表現することができる。	看護活動の分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，保健・医療・福祉における看護の役割を理解している。

【「(1) ウ 看護活動の分野」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人間が生活しているあらゆる場において看護活動が行われていることに関心をもっている。 様々な場における看護活動及び看護の役割について意欲的に追究しようとする実践的な態度を身に付けている。 保健・医療・福祉と看護活動とのかかわりについて関心をもち，看護の役割を追究しようとする実践的な態度を身に付けている。	家庭・地域・学校・職場・病院における看護活動及び看護の役割について思考を深めることができる。 保健医療施設や福祉施設などの役割について思考を深めることができる。	家庭・地域・学校・職場・病院における看護活動及び看護の役割について表現することができる。	家庭・地域・学校・職場・病院における看護活動の特徴に関する知識を身に付けている。 それぞれの場における看護の役割を理解している。 保健医療施設や福祉施設などの種類と役割の概要を看護活動とのかかわりにおいて理解している。

(4) 「(1)看護の意義と役割 エ 看護職とその倫理」

【学習指導要領の内容】

看護の法的責任と任務及び看護の職業倫理について学習させ，人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に根ざした人間観・看護観を育てるとともに，患者の生活の質を重視した看護の必要性について理解させる。

現代医療の諸問題について考えさせることにより，看護者等の医療従事者一人一人が，それぞれに生命に関する倫理観をもって行動することが重要となることを理解させる。

【「(1) エ 看護職とその倫理」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
看護の法的責任と任務及び看護の職業倫理について関心をもち，現代医療の諸問題に意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人間の生命や人権を尊重した人間観・看護観に基づき，現代医療の諸問題について倫理的に思考を深めることができる。	人間尊重の精神と職業倫理に基づき，自己の人間観・看護観・倫理観を的確に表現することができる。	看護の法的責任と任務及び看護の職業倫理に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，患者の生活の質を重視した看護の必要性及び看護者としての生命倫理の重要性を理解している。

【「(1) エ 看護職とその倫理」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>看護の法的責任と任務及び看護の職業倫理について関心をもっている。</p> <p>現代医療の問題について生命に対する倫理観をもって意欲的に追究しようとする実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に根ざした人間観・看護観について思考を深めることができる。</p> <p>生活の質を重視した看護の必要性について思考を深めることができる。</p> <p>現代の医療における生命倫理の問題について倫理的に思考を深めることができる。</p>	<p>人間尊重の精神に基づいた自己の人間観・看護観を表現することができる。</p> <p>現代医療における生命倫理の問題について倫理観に基づき自己の考えを表現することができる。</p>	<p>看護の法的責任と任務に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <p>患者の生活の質を重視した看護の必要性を理解している。</p> <p>現代医療における諸問題について倫理観をもって行動することの重要性を理解している。</p>

(5) 「(2)日常生活と看護 ア 日常生活の理解」

【学習指導要領の内容】

日常生活行動は人間の基本的欲求に基づいており、日々の生活の積み重ねが成長・発達の過程であることを理解させる。

健康の保持・増進や成長・発達に役立つよう行動することは、本来自主的な行為であることを理解させる。

健康に問題が生じ、日常生活行動が自力で行えないときに、看護が重要となることを理解させる。

健康に関わる日常生活行動としては、生命維持に関連の深いものから社会生活に関連の深いものまであり、これらは、人間が生理的・心理的並びに社会的に平衡状態を維持していくための行動であることを理解させる。

日常生活の援助を行うに当たっては、その必要性について科学的に考え、安全と安楽に配慮し、対象の状態に応じて日常生活の自立に向けた援助を行うことが大切であることを理解させる。

【「(2) ア 日常生活の理解」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>日常生活行動と健康との関連について関心をもち、自らの健康的な日常生活を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>日常生活行動と健康との関連について思考を深め、日常生活の援助の必要性について適切に判断することができる。</p>	<p>日常生活の意義について科学的に考え、対象の状態に応じた日常生活の援助の必要性を的確に表現することができる。</p>	<p>日常生活行動の意義に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、日常生活の援助の必要性と看護の役割を理解している。</p>

【「(2) ア 日常生活の理解」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>日常生活行動と健康との関連について関心をもっている。</p> <p>自己の日常生活を振り返り、健康的な生活を送るための課題を意欲的に見付けようとしている。</p>	<p>日常生活行動と健康との関連について思考を深めることができる。</p> <p>対象の状態に応じた日常生活の援助の必要性について判断することができる。</p>	<p>病人の日常生活の意義と対象の状態に応じた日常生活の援助の必要性を表現することができる。</p>	<p>日常生活行動と基本的欲求や成長・発達の過程との関連に関する知識を身に付けている。</p> <p>病人の日常生活の意義と看護の役割を理解している。</p> <p>援助の必要性について科学的に考え、安全と安楽に配慮し、自立に向けた援助を行うことの大切さを理解している。</p>

対象の状態に応じた日常生活の援助技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	断し創意工夫することができる。	状態に応じて日常生活の自立に向けた援助を行うことができる。	いて理解している。 日常生活行動の意義と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している 援助の方法の原理・原則を科学的に理解している。
--	-----------------	-------------------------------	--

(7) 「(2)日常生活と看護 ク 学習,生産的な活動,レクリエーション」

【学習指導要領の内容】

療養生活における学習,生産的な活動及びレクリエーションの意味と必要性及び看護者の役割を理解させる。

患者の自立を目指す学習の必要性を理解させるとともに、患者の負担とならない継続可能な学習の方法を理解させる。また、長期療養者の心理的,社会的状況と学習との関係を理解させ、その援助方法を学習させる。

療養生活の中での生産的な活動へのつながりが、患者に生きがいを与え社会復帰への意欲となることを理解させるとともに、援助の方法を理解させる。

療養生活での気分転換を図り、回復意欲に励みを与えるという、レクリエーションの意義を理解させ、安全で楽しい雰囲気のできるレクリエーションの内容と方法を考えさせる。

【「(2) ク 学習,生産的な活動,レクリエーション」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学習,生産的な活動,レクリエーションの意義と必要性について関心をもち,対象の状態に応じた適切な援助技術の習得に意欲的に取り組み,実践的な態度を身に付けている。	学習,生産的な活動,レクリエーションの意義と援助の必要性について科学的に思考を深め,対象の状態に応じた援助の方法を判断し,創意工夫することができる。	学習,生産的な活動,レクリエーションの援助に関する基礎的・基本的な技術を身に付け,対象の状態に応じて適切に援助を行うことができる。	学習,生産的な活動,レクリエーションの援助に関する基礎的・基本的な知識を身に付け,それらの意義と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している。

【「(2) ク 学習,生産的な活動,レクリエーション」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学習,生産的な活動及びレクリエーションの意義と必要性について関心をもっている。 対象の状態に応じた学習,生産的な活動,レクリエーションの援助技術の習得に意欲的に取り組むとともに,実践的な態度を身に付けている。	療養生活における学習,生産的な活動及びレクリエーションの意義と必要性について思考を深めることができる。 対象の負担とならない継続可能な学習の方法を創意工夫することができる。 対象に生きがいを与え,社会復帰への意義となる生産的な活動の援助の方法を創意工夫することができる。 安全で楽しい雰囲気のできるレクリエーションの内容と方法を創意工夫することができる。	学習,生産的な活動,レクリエーションの援助の在り方や原則を踏まえ,療養生活における適切な援助を行うことができる。	療養生活における学習,生産的な活動,レクリエーションの援助に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 学習については,対象の自立を目指す学習の必要性を理解している。 長期療養者の心理的,社会的状況と学習との関係を理解している。 生産的な活動については対象に生きがいを与え社会復帰への意欲となることを理解している。

	る。	レクリエーションについては療養生活での気分転換を図り、回復意欲に励みを与えるレクリエーションの意義を理解させる。
--	----	--

(8) 「(2)日常生活と看護 ケ 病床環境の調整」

【学習指導要領の内容】

人間の健康にとって望ましい環境条件について学習させた上で、環境調整が患者の健康回復に及ぼす影響を理解させる。

病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための知識と技術を習得させる。

患者を取り巻く人々と患者との人間関係の調整について理解させる。

【「(2) ケ 病床環境の調整」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人間の健康と環境との関連について関心を持ち、対象の状態に応じた病床環境の調整について意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人間の健康と環境について科学的に思考を深め、対象の状態に応じた病床環境の調整の方法を判断し、創意工夫することができる。	病床の作り方及び病床環境を整えるための技術を身に付け、安全と安楽に配慮し、対象の状態に応じて日常生活の自立に向けた援助を行うことができる。	人間の健康にとって望ましい環境条件に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、対象の状態に応じた病床環境の調整の意義と必要性を理解している。

【「(2) ケ 病床環境の調整」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
人間の健康と環境との関連について関心をもっている 対象の状態に応じた病床環境の調整について意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人間の健康と環境について科学的に思考を深めることができる。 対象の状態に応じた病床環境の調整の方法を判断し、創意工夫することができる。	安全と安楽に配慮し、病床の作り方及び病床環境を整えることができる。 対象の状態に応じて病床環境の調整を行うことができる。	人間の健康にとって望ましい環境条件に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 環境調整が患者の健康回復に及ぼす影響を理解している。 対象の状態に応じた病床環境調整の意義と必要性を理解している。 対象を取り巻く人々と対象との人間関係の調整について理解している。

(9) 「(3)診療と看護 ア 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察」

【学習指導要領の内容】

体温、脈拍、呼吸、血圧を観察することの意義と重要性を理解させる。

体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を与える因子やそれぞれの測定の原理、患者の諸条件及び器具の操作と手順について学習させ、正確に測定する技術を習得させる。

測定結果の正常と異常を判断し、適切に記録・報告を行うことができるようにさせる。

【「(3) ア 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
体温、脈拍、呼吸、血圧及びそれらに影響を与える因子について関	体温、脈拍、呼吸、血圧を観察することの意義と重要性について思	体温、脈拍、呼吸、血圧測定の基礎的・基本的な技術を身に付け、	体温調節の仕組み、心臓と血管の働き、呼吸運動と呼吸の生理につ

心もち、正確な測定技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、測定結果の正常と異常を適切に判断することができる。	正確に測定することができる。	いての基礎的・基本的な知識を身に付け、体温、脈拍、呼吸、血圧を観察することの意義と重要性を理解している。
---	---	----------------	--

【「(3) ア 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>体温、脈拍、呼吸、血圧とその影響因子について関心をもっている。</p> <p>体温、脈拍、呼吸、血圧の正確な測定技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>患者の状態を把握する上での体温、脈拍、呼吸、血圧を測定する意義や重要性について思考を深めることができる。</p> <p>体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を与える因子について思考を深め、影響を最小にするような測定方法を創意工夫することができる。</p> <p>各正常範囲を基に測定結果の正常と異常を適切に判断することができる。</p>	<p>体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を及ぼす因子を考慮し、安全安楽を配慮して正確に測定することができる。</p> <p>測定した結果を適切に記録・報告することができる。</p>	<p>体温調節の仕組み、心臓と血管の働き、呼吸運動と呼吸の生理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <p>それぞれの測定の原理や患者の諸条件及び器具の操作と手順に関する知識を身に付けている。</p> <p>患者把握を行う上で、体温、脈拍、呼吸、血圧を観察する意義と重要性について理解している。</p>

(10) 「(3) 診療と看護 イ 診察・検査と看護」

【学習指導要領の内容】

診断の過程における検査の意義と概要及び患者の心理について理解させる。

診察や検査における看護者の役割について理解させ、診察介助、身体各部の計測、主な検査の介助に関する知識と技術を習得させる。

主な医療機器の種類や特徴について学習させ、医療機器を装着している患者の継続的な観察と異常の早期発見及び対処の重要性について理解させる。

【「(3) イ 診察・検査と看護」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>診断の過程における検査の意義や患者の心理に関心もち、患者の心理を理解し、検査・診察が円滑に行われるための実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>診察、検査における看護者の役割について思考を深め、援助の方法を適切に判断することができる。</p>	<p>診察の介助、身体各部の計測、主な検査の介助に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、患者の状態に応じた援助を行うことができる。</p>	<p>診察介助、身体各部の計測、主な検査の介助を行うための基礎的・基本的な知識を身に付け、診断の過程における検査の意義と概要及び患者の心理、看護者の役割について理解している。</p> <p>医療機器についての基礎的・基本的な知識を身に付け、継続的な観察と異常の早期発見及び対処が重要であることを理解している。</p>

【「(3) イ 診察・検査と看護」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>診断の過程における検査の意義や患者の心理に関心をもっている。</p> <p>患者の苦痛や不安の理解に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>診察介助，身体各部の計測，主な検査の介助に関する技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>診察や検査における看護者の役割について思考を深めることができる。</p> <p>患者の不安や苦痛を軽減し，診療が円滑に行われるような援助方法を判断することができる。</p> <p>人工呼吸器を装着している患者の安全を守るための継続的観察，異常の早期発見の重要性について思考を深めることができる。</p>	<p>患者の苦痛や不安の軽減を考えた診察介助，身体各部の計測，主な検査の介助を行うことができる。</p> <p>主な医療機器を正しく取り扱うことができる。</p>	<p>診察介助，身体各部の計測，主な検査の介助に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <p>診断の過程における検査の意義と概要及び患者の心理，看護者の役割について理解している。</p> <p>主な医療機器の種類や特徴及び取扱いに関する知識を身に付けている。</p> <p>各種監視装置や人工呼吸器などの医療機器を装着している患者の安全を守るためには，継続的な観察，異常の早期発見及び対処が重要であることを理解している。</p>

(11) 「(3)診療と看護 ウ 与 薬」

【学習指導要領の内容】

医師の処方から与薬後の観察及び評価までの一連の与薬の過程を理解させる。

与薬のそれぞれの過程における看護者の役割について理解させる。

与薬のそれぞれの方法及び安全で正確な与薬をするための薬物の管理や取扱いに関する知識と技術を習得させる。

【「(3) ウ 与 薬」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>薬物の効果や管理について関心をもち，安全で正確な与薬を行うための実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>一連の与薬の過程における看護者の役割について思考を深め，安全で正確な与薬を行うための援助を適切に判断することができる。</p>	<p>安全で正確な与薬の方法及び薬物管理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け，適切に援助を行うことができる。</p>	<p>一連の与薬の過程と，安全で正確な与薬方法及び薬物管理に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，それぞれの過程における看護者の役割を理解している。</p>

【「(3) ウ 与 薬」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>薬物の効果や管理について関心をもっている。</p> <p>内服薬の与え方，外用薬の用い方，注射法，酸素療法及び，安全で</p>	<p>一連の与薬の過程における看護者の役割について思考を深めることができる。</p> <p>与薬の方法により安全で正確な援助を判断</p>	<p>安全で正確な内服薬の与え方，外用薬の用い方，注射法，酸素療法を行うことができる。</p> <p>安全で正確な与薬を行うための薬物の管理や</p>	<p>内服薬の与え方，外用薬の用い方，注射法，酸素療法に関する知識を身に付けている。</p> <p>安全かつ正確な薬物の管理及び取扱いに関</p>

正確な与薬をするための薬物の管理や取り扱いに関する技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	することができる。	取り扱いができる。	する知識を身に付けている。 医師の処方から与薬後の観察及び評価までの一連の与薬の過程及びそれぞれの過程における看護者の役割について理解している。
---	-----------	-----------	---

(12) 「(3)診療と看護 エ 包帯法」

【学習指導要領の内容】

包帯の目的と種類について理解させ、患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障を最小にし、循環障害を起こさない包帯を適用するための知識と技術を習得させる。

【「(3) エ 包帯法」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
包帯の目的や種類について関心をもち、患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障を最小にするための実践的な態度を身に付けている。	包帯の種類と目的について思考を深め、患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障を最小にする援助を適切に判断することができる。	包帯を適用するための基礎的・基本的な技術を身に付け、患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障を最小にするような援助を行うことができる。	患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障が最小になるような包帯を適用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、包帯の目的と種類を理解している。

【「(3) エ 包帯法」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
包帯の目的と種類について関心をもっている。 患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障を最小にし、循環障害を起こさないように包帯を適用するための技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	患者の状態に適した包帯の種類や適用の仕方について思考を深めることができる。 患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障を最小にし、循環障害を起こさないような包帯の適用の仕方を判断し創意工夫することができる。	包帯の種類、目的に応じ、患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障を最小にし、循環障害を起こさないように包帯を適用することができる。	患者の生理機能を妨げず、日常生活における支障を最小にし、循環障害を起こさないような包帯を適用するための知識を身に付けている。 包帯の種類、目的を理解している。

(13) 「(3)診療と看護 オ 電法あんぼう」

【学習指導要領の内容】

温度刺激に対する生体の反応及び電法の種類と目的について理解させる。

安全でかつ効果的な電法を行うための知識と技術を習得させる。

【「(3) オ 電法」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
温度刺激に対する生体の反応に関心をもち、安全でかつ効果的な電法を行うための実践的な態度を身に付けている。	温度刺激に対する生体の反応について思考を深め、安全で効果的な電法の援助を適切に判断し創意工夫することができる。	電法を行うための基礎的・基本的な技術を身に付け、安全かつ効果的に援助することができる。	安全で効果的な電法を行うための基礎的・基本的な知識を身に付け、温度刺激に対する生体の反応及び電法の種類と目的について理解している。

【「(3) オ 電 法」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>温度刺激に対する生体の反応について関心をもっている。</p> <p>安全でかつ効果的な電法を行うための技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>温度刺激に対する生体の反応について思考を深めることができる。</p> <p>患者の状態に応じて安全で効果的な電法の方法を判断し創意工夫することができる。</p>	<p>温度刺激に対する生体の反応に基づき、電法の種類に応じて、安全で効果的に電法を行うことができる。</p>	<p>安全で効果的な電法を行うための基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <p>温度刺激に対する生体の反応について理解している。</p> <p>電法の種類と目的について理解している。</p>

(14) 「(3)診療と看護 ^{じょくそう}カ 褥瘡の予防と手当て」

【学習指導要領の内容】

褥瘡形成のメカニズムを理解させ、褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助に関する知識と技術を習得させる。

褥瘡予防における看護者の役割の重要性を理解させる。

【「(3) カ 褥瘡の予防と手当て」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>褥瘡形成のメカニズムについて関心をもち、褥瘡の予防と手当てをするための実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>褥瘡形成のメカニズムについて思考を深め、褥瘡の予防と手当てをするための援助について適切に判断し創意工夫することができる。</p>	<p>褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助についての基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に援助を行うことができる。</p>	<p>褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助についての基礎的・基本的な知識を身に付け、褥瘡形成のメカニズム及び褥瘡予防における看護者の役割の重要性を理解している。</p>

【「(3) カ 褥瘡の予防と手当て」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>褥瘡形成のメカニズムについて関心をもっている。</p> <p>褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助に関する技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>褥瘡予防における看護者の役割に関心をもっている。</p>	<p>褥瘡形成のメカニズムについて、褥瘡発生の要因や誘因、好発部位等と関連させて思考を深めることができる。</p> <p>患者の状態に応じて褥瘡の予防と手当てについて判断し創意工夫することができる。</p>	<p>褥瘡を予防するために適切な援助を行うことができる。</p> <p>褥瘡を早期発見するために適切な援助を行うことができる。</p> <p>褥瘡発生時に適切な援助を行うことができる。</p>	<p>褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <p>褥瘡形成のメカニズムを褥瘡発生の要因や誘因、好発部位等と関連して理解している。</p> <p>褥瘡予防における看護者の役割の重要性を理解している。</p>

(15) 「(3)診療と看護 キ 無菌法と院内感染の予防」

【学習指導要領の内容】

感染予防の原則を理解させる。

無菌法及び院内感染予防の必要性及び感染予防における看護者の役割の重要性について理解させる。

滅菌・消毒の方法、無菌操作、隔離、ガウンテクニック及び手洗いについて必要な知識と技術を習得させる。

【「(3) キ 無菌法と院内感染の予防」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
病原微生物と感染の成立について関心を持ち、感染を予防するための実践的な態度を身に付けている。	病原微生物と感染の成立及び感染予防について思考を深め、感染を予防するための方法を適切に判断することができる。	感染を予防するための基礎的・基本的な技術を身に付け、感染予防の原則に基づいた行動をとることができる。	病原微生物と感染の成立及び感染予防についての基礎的・基本的な知識を身に付け、感染予防の原則、無菌法や院内感染予防の必要性及び感染予防における看護者の役割の重要性について理解している。

【「(3) キ 無菌法と院内感染の予防」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
病原微生物と感染の成立に関心をもっている。 無菌法と院内感染の予防について意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	病原微生物と感染の成立について思考を深めることができる。 感染予防の原則に基づき、適切な感染予防の方法を判断することができる。	感染予防するための滅菌と消毒の方法を実践することができる。 滅菌物の取り扱い方（無菌操作）や消毒薬を作ることができる。 滅菌・消毒の方法，無菌操作，隔離，ガウンテクニック及び手洗いを行うことができる。	病原微生物と感染の成立に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 感染予防の原則を理解している。 滅菌と消毒，無菌操作，隔離，ガウンテクニック及び手洗いに必要な知識を身に付けている。

(16) 「(3)診療と看護 ク 救急処置」

【学習指導要領の内容】

救急処置の意義及び救急処置における看護者の役割を理解させる。

救急患者とその家族の心理面に対する配慮の必要性について理解させる。

第一次救命処置，外傷の手当て及び傷病者の移送に関する知識と技術を習得させる。

【「(3) ク 救急処置」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
救急処置の意義や看護者の役割について関心を持ち、救急処置を行うための実践的な態度を身に付けている。	救急処置の意義及び看護者の役割について思考を深め、状況に応じた救急処置について適切に判断することができる。	救急処置に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、状況に応じた救急処置を行うことができる。	救急処置に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、救急処置の意義、救急処置における看護者の役割及び救急患者とその家族の心理面に対する配慮の必要性について理解している。

【「(3) ク 救急処置」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
救急処置の意義及び看護者の役割について関心をもっている。	救急処置の意義及び看護者の役割について思考を深めることができる。	心停止，呼吸停止，溺水，急性中毒等の場合の第一次救命処置，出血，熱傷，骨折，捻	第一次救命処置，外傷の手当て，傷病者の救急処置に関する知識を身に付けている。

心停止，呼吸停止，溺水，急性中毒等の場合の第一次救命処置，出血，熱傷，骨折，捻挫，脱臼等の外傷の手当及び傷病者の移送に関する技術の習得に意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	状況に応じた救急処置の方法について適切に判断することができる。 救急患者とその家族の心理について思考を深めることができる。	挫，脱臼等の外傷の手当及び傷病者の移送の技術を身に付け，状況に応じた救急処置を行うことができる。	救急処置の意義及び看護師の役割について理解している。 救急患者とその家族の心理面に対する配慮の必要性について理解している。
--	--	--	--

(17) 「(4)看護活動の展開 ア 疾病・障害の状態と看護」

【学習指導要領の内容】

適切な看護を行うためには，患者の状態に応じた援助を行う必要がある事を理解させる。

患者の訴えと徴候についての概要を理解させ，看護師はこれらの訴えと徴候を判断して，適切に対応しなければならないことを理解させる。

疾病・障害の状態に応じた看護として，疾病の各経過の特徴とそれに応じた看護の概要について理解させる。

主な症状として痛み，発熱，浮腫，呼吸困難，意識障害等を学習させ，その看護について理解させる。

【「(4) ア 疾病・障害の状態と看護」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
患者の疾病・障害の状態や治療及び看護について関心をもち，状態に応じた看護を行うための実践的な態度を身に付けている。	患者の疾病・障害や治療の特徴及びその看護について思考を深め，患者の状態に応じた援助を適切に判断することができる。	患者の疾病・障害の状態に応じた看護を行うための基礎的・基本的な技術を身に付け，適切な援助を行うことができる。	患者の訴えと徴候及び主な症状と看護についての基礎的・基本的な知識を身に付け，患者の状態に応じた看護の必要性について理解している。

【「(4) ア 疾病・障害の状態と看護」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
患者の疾病・障害の状態や治療及び看護について関心をもっている。 疾病・障害の状態に応じた看護を行うために意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	患者の疾病・障害や治療の特徴及びその看護について思考を深めることができる。 患者の訴えと徴候に基づき，患者の状態を判断し，急性期，慢性期，回復期，終末期の疾病の各経過及び主な症状に応じた援助について適切に判断することができる。	患者の訴えと徴候から疾病・障害の状態を把握することができる。 急性期，慢性期，回復期，終末期の疾病の各経過及び主な症状に応じた援助を行うことができる。	患者の訴えと徴候及び主な症状と看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 急性期，慢性期，回復期，終末期の疾病の各経過及び主な症状に応じた援助を行う必要があることを理解している。

(18) 「(4)看護活動の展開 イ 患者との人間関係」

【学習指導要領の内容】

日常生活における人間関係の基本的な理解に基づいて，患者と医療従事者及び看護師との人間関係の特徴を学習させる。

良い人間関係を保つことが看護を実践するための基盤となることを理解させる。

信頼関係を構築するためのコミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得させる。

【「(4) イ 患者との人間関係」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
日常生活における人間関係に関心をもち、より良い人間関係を築くための実践的な態度を身に付けている。	患者と医療従事者及び看護者との人間関係について思考を深め、良い人間関係を構築するためのコミュニケーションを適切に判断し、創意工夫することができる。	コミュニケーションに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、良い人間関係を築くことができる。	コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、良い人間関係を保つことが看護を実践するための基盤となることを理解している。

【「(4) イ 患者との人間関係」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
日常生活における人間関係に関心をもっている。 より良い人間関係を構築するためのコミュニケーション技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	患者と医療従事者及び看護者との人間関係について思考を深めることができる。 良い人間関係を構築するためのコミュニケーションを判断し創意工夫することができる。	より良い人間関係を構築するためのコミュニケーション技術を身に付け、その成果を適切に表現することができる。	コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 患者と医療従事者及び看護者との人間関係の特徴を理解している。

(19) 「(4)看護活動の展開 ウ 看護の過程」

【学習指導要領の内容】

適切な看護を行うためには、看護の一連の過程に沿って看護上の問題を解決することが重要であることを理解させる。

看護の一連の過程を学習させ、患者の状態の変化に応じて継続的に看護を行う必要があることを理解させるとともに、問題解決のための思考力を養う。

看護における研究の目的と意義を理解させ、看護研究の方法と過程を学習させる。

【「(4) ウ 看護の過程」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
思考と実践からなる看護の一連の過程に関心をもち、適切な看護を行うための実践的な態度を身に付けている。 看護における研究の目的と意義に関心をもっている。	看護過程について科学的に思考を深め、適切な看護を判断し、創意工夫することができる。 看護研究の目的と意義について思考を深めることができる。	看護過程を展開するための基礎的・基本的な技術を身に付け、看護上の問題点を解決するために、一連の過程を踏んだ看護を計画することができる。 看護研究の方法についての基礎的・基本的な技術を身に付け、その成果を適切に表現することができる。	看護過程を展開するための基礎的・基本的な知識を身に付け、一連の過程に沿って看護問題を解決することの重要性及び患者の状態に応じた継続看護の必要性を理解している。 看護研究の方法と過程についての基礎的・基本的な知識を身に付け、看護における研究の目的と意義について理解している。

【「(4) ウ 看護の過程」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
思考と実践からなる看護の一連の過程について	思考と実践からなる看護の一連の過程について	患者のニーズを把握するための観察や、得ら	看護過程を展開するための基礎的・基本的な

<p>て関心をもっている。</p> <p>患者のもつ問題に関心をもち、その解決に向けて意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>看護における研究の目的と意義に関心をもっている。</p>	<p>て思考を深めることができる。</p> <p>患者のもつ看護上の問題を解決するために科学的に思考を深めることができる。</p> <p>看護における研究の目的と意義について思考を深めることができる。</p>	<p>れた情報の処理を適切に行い、看護上の問題を解決するために、一連の過程を踏んだ看護計画を作成することができる。</p> <p>看護研究の方法についての技術を身に付け、その成果を適切に表現することができる。</p>	<p>知識を身に付けている。</p> <p>一連の過程に沿って看護上の問題を解決することの重要性及び患者の状態の変化に応じて継続的に看護を行うことの必要性を理解している。</p> <p>看護研究の方法と過程に関する知識を身に付けている。</p> <p>看護における研究の目的と意義について理解している。</p>
---	--	--	---

(20) 「(4)看護活動の展開 Ⅰ 看護活動の場における組織」

【学習指導要領の内容】

保健・医療・福祉の看護活動の場における看護職間や他部門及び他の医療関係職種との人間関係の在り方や連携の重要性について理解させる。

医療施設などにおける看護組織、看護体制についての学習を通して、組織的かつ継続的な看護活動が行われることを理解させる。

【「(4) Ⅰ 看護活動の場における組織」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>看護活動の場における組織に関心をもち、組織的かつ継続的な看護活動を行うための実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>看護活動の場における組織及び医療関係職種との望ましい人間関係や連携の在り方について思考を深めることができる。</p>	<p>医療関係職種間の連携の重要性と医療施設における組織的かつ継続的な看護活動について表現することができる。</p>	<p>看護活動の場における看護組織や看護体制についての基礎的・基本的な知識を身に付け、医療関係職種間の連携の重要性及び医療施設における組織的、継続的な看護活動について理解している。</p>

【「(4) Ⅰ 看護活動の場における組織」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<p>看護活動の場における組織に関心をもっている。</p> <p>看護活動を行う様々な組織における人間関係や連携に関心をもち、組織的、継続的な看護活動を意欲的に追究しようとする実践的な態度を身に付けている。</p>	<p>医療施設などにおける組織的かつ継続的な看護活動を行うための看護組織、看護体制について思考を深めることができる。</p> <p>看護活動の場における医療関係職種との望ましい人間関係や連携の重要性について思考を深めることができる。</p>	<p>医療施設などにおける組織的かつ継続的な看護活動について表現することができる。</p> <p>看護活動の場における医療関係職種との望ましい人間関係や連携の重要性について表現することができる。</p>	<p>看護活動の場における看護組織や看護体制についての基礎的・基本的な知識を身に付けている。</p> <p>看護活動の場における看護職間や他部門及び他の医療関係職種との人間関係や連携の重要性について理解している。</p> <p>医療施設などにおいては組織的かつ継続的な看護活動が行われることを理解している。</p>

第4 単元の評価に関する事例

基礎看護

ここでは、第1学年における基礎看護の単元「(2)日常生活と看護 Ⅰ 姿勢・体位と運動」の学習指導と評価における実践事例を紹介する。この事例は、次のような手順を踏んで評価をしている。

- ・単元の評価規準を設定する。
- ・指導と評価の計画を立て、どこでどのような方法で評価するかを決める。
- ・計画に従い学習指導と評価を行い、その結果をフィードバックしつつ個に応じた指導をすすめる。
- ・評価資料を蓄積し、単元の学習後の観点別評価を総括する。

この事例での観点別評価は、ワークシート、小テスト、実技テスト、評価表及び行動観察を用いて、講義と実習双方の学習活動を一体的に評価している。

単元名 「(2)日常生活と看護 Ⅰ 姿勢・体位と運動」(10時間)(第1学年)

1 単元の目標

姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響、姿勢・体位の種類と生理的な特徴、ボディメカニクスの原理について学習させるとともに、疾病・障害や治療により安静を強いられる患者の心身の苦痛、障害及び運動の必要性について理解させ、ボディメカニクスの原理に基づいた床上における安楽な体位と良肢位の保持、体位変換、移動と移送についての知識と技術を習得させる。

2 単元の評価規準

	内容のまとめりごとの評価規準	単元の評価規準	学習活動における具体的評価規準
ア 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	日常生活行動と健康との関連について関心をもち、自ら健康的な日常生活を目指すとともに、対象の状態に応じた日常生活の援助技術の習得に意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。	姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響について関心をもち、自ら健康的な日常生活を目指すとともに、対象の状態に応じた援助技術の習得に意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。	姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響について関心をもっている。 姿勢・体位と運動に関わる課題を追究し、健康的な生活を目指して改善しようとしている。 対象の状態に応じた姿勢・体位と運動の援助技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
イ 思 考 ・ 判 断	日常生活行動に影響を及ぼす因子と援助の必要性について科学的に思考を深め、対象の状態に応じた援助の方法を判断し、創意工夫することができる。	姿勢・体位と運動に影響を及ぼす因子と援助の必要性について科学的に思考を深め、対象の状態に応じた援助の方法を判断し、創意工夫することができる。	姿勢・体位と運動に影響を及ぼす因子と援助の必要性について科学的根拠を基に思考を深めることができる。 安全と安楽に配慮し、対象の状態に応じた姿勢・体位と運動の援助の方法を判断し創意工夫することができる。
ウ 技 能 ・ 表 現	日常生活の援助に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、安全と安楽に配慮し、対象の状態に応じて日常生活の自立に向けた援助を行うことができる。	姿勢・体位と運動の援助に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、安全と安楽に配慮し、対象の状態に応じて日常生活の自立に向けた援助を行うことができる。	ボディメカニクスの原理に基づいて、安全と安楽に配慮した姿勢・体位と運動の援助を行うことができる。 ボディメカニクスの原理に基づいて、対象の状態に応じて日常生活の自立に向けた姿勢・体位と運動の援助を行うことができる。
エ 知 識 ・ 理 解	日常生活の援助に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、日常生活行動の意義と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している。	姿勢・体位と運動の援助に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、日常生活における姿勢・体位と運動の意義と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している。	姿勢・体位と運動における生理的メカニズムと生体に影響を及ぼす因子に関する知識を身に付けている。 姿勢・体位と運動の意義と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している。 姿勢・体位と運動の援助方法の原理・原則を科学的に理解している。

3 指導と評価の計画

(1) 授業の流れ

日常生活における姿勢・体位と運動について自分の生活と関連させて考えさせることにより、健康との関連について関心を高めた。ボディメカニクスの原理と科学的根拠を踏まえ、安全と安楽に配慮した援助方法を身に付けさせた。さらに、実習を行うことにより対象に応じた援助の方法を考え、生徒が主体的に取り組めるよう配慮した。実習については、ティーム・ティーチングで指導に当たり、指導の徹底を図った。

(2) 指導と評価の展開

次程	ねらい・学習活動	単元の評価 規準との関 連	評価方法等
一次 (2時間 扱い)	姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響、姿勢・体位の種類と生理的な特徴、ボディメカニクスの原理について理解する。		
	<ul style="list-style-type: none"> 生活を振り返り、姿勢・体位と運動の意義と健康に及ぼす影響について考える。 代表的な姿勢・体位を知り、体験を通して気付いた事を発表し、生理的な特徴についてまとめる。 自己の日常生活を振り返り、姿勢・体位と運動にかかわる課題とその改善策について考える。 ボディメカニクスの原理についてまとめる。 	アの アの イの エの エの	ワークシート1, 2 ワークシート3 ワークシート3 ワークシート1, 2, 4 ワークシート5
二次 (1時間 扱い)	疾病・障害や治療により安静を強いられる対象の心身の苦痛や障害及び運動の必要性を説明できる。		
	<ul style="list-style-type: none"> 疾病・障害や治療により安静を強いられる患者の心身の苦痛について体験等から考える。 疾病・障害や治療により安静を強いられる患者の心身の障害についてまとめる。 患者の状態に応じた運動の必要性と看護者の役割について考える。 	アの アの イの エの エの	ワークシート5 ワークシート3 ワークシート5 ワークシート5 小テスト
三次 (2時間 扱い)	ボディメカニクスの原理に基づいた床上における安楽な体位と良肢位の保持の援助ができる。		
	<ul style="list-style-type: none"> 安楽な体位と良肢位についてまとめる。 ボディメカニクスの原理に基づく対象の状態に応じた安楽な体位と良肢位を保持するための方法を創意工夫する。 	アの イの ウの ウの エの	ワークシート6 ワークシート6 評価表1 評価表1 ワークシート6
四次 (3時間 扱い)	ボディメカニクスの原理に基づいた体位変換の援助ができる。		
	<ul style="list-style-type: none"> ボディメカニクスの原理に基づく体位変換の方法を視聴覚教材等により知る。 安全安楽に配慮して体位変換の実習をする。 対象の状態に応じた体位変換の方法を創意工夫する。 	アの イの ウの ウの エの	ワークシート7 ワークシート7 評価表2(実技テスト) 評価表2(実技テスト) ワークシート7
五次 (2時間 扱い)	ボディメカニクスの原理に基づいた移動と移送の援助ができる。		
	<ul style="list-style-type: none"> ボディメカニクスの原理に基づく移動・移送の方法を視聴覚教材等により知る。 安全・安楽に配慮し、移動及び移送の実習をする。 	アの ウの エの	ワークシート8 評価表3 ワークシート8

(注) ワークシートは生徒の状況や授業展開に応じて、必要事項をノート等にまとめさせることに代えることもできる。

4 観点別評価の進め方

評価を行うに当たっては、学習活動における具体の評価規準を設定し、これに照らして、まず「おおむね満足できると判断される」状況（B）か、Bでない状況、すなわち「努力を要すると判断される」状況（C）であるので指導の手だてが必要であるかを見る。さらに、「おおむね満足できると判断される」状況（B）のものうち、生徒の実現の程度について質的な高まりや深まりをもつと見られるとき、「十分満足できると判断される」状況（A）であるとする。

(1) 基本的な考え方

「十分満足できると判断される」状況（A）の視点

「十分満足できると判断される」状況（A）とは、「おおむね満足できると判断される」状況（B）のうち、以下に例示されるような状況が見られる場合である。

(ア) 関心・意欲・態度

学んだことを基に自ら課題をもち、その解決に向けて意欲的に取り組んだり、学習したことを基に発展的内容について調べるなど生徒の主体的な活動や態度が見られる場合。

(イ) 思考・判断

新しく学んだことがらを人体の構造と機能等の既習内容と関連付けたり、科学的根拠を基により広い視野から発展的考察をすることができている場合。

(ウ) 技能・表現

基礎的・基本的な技術を正確かつ確実に身に付けるとともに、対象の状態に応じた科学的根拠に基づく援助技術の応用発展が見られる場合。

(エ) 知識・理解

基礎的・基本的な知識を確実に身に付けるとともに、既習内容と関連付けて、科学的根拠に基づいて対象の状態に応じた援助の必要性和援助方法が理解できている場合。

「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だて

個々の生徒の実態を把握し、状況に即してより具体的な資料を提示したり、学習の進め方について助言したりする。

(ア) 関心・意欲・態度

行動観察やワークシート等のチェックを通して、学習のねらいを確認した上で何をどのように取り組んだらよいかを具体的に助言する。

(イ) 思考・判断

ワークシート等のチェックを通して、人体の構造と機能について再確認したり、資料を活用したりして科学的視点から創意工夫するための具体的方法を提示する。

(ウ) 技能・表現

評価表等を通して、「努力を要する」と評価された生徒に対しては、技術習得のための補習時間を設け、技術が確実に身に付くように個別指導を実施する。

(エ) 知識・理解

ワークシート等のチェックを通して、理解が足りない事項についての補充課題を与えたり、補助プリントを作成し配布したりする。また、小テストで「努力を要する」状況と評価された生徒には、テスト後その問題について解説し、類似の問題に取り組みせる等の指導を行う。

(2) 「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例及び「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だての例

	学習活動における具体の評価規準	「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例	「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だて
ア 関心・意欲・態度	姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響について関心をもっている。	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における姿勢、体位、運動のもつ意味や生活に及ぼす影響、代表的な体位の体験結果について、ワークシート1・2の各項目に、自分の考えに加えこれらについて自分で調べた内容を記入している。 疾病・障害や治療により安静を強いられている患者における姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響について、ワークシート5の 〇 に、自分の考えに加え自分で調べた内容を記入している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活の中での具体的な例を考えさせることにより、興味・関心を引き出す。 日常生活における姿勢、体位、運動のもつ意味や生活に及ぼす影響、代表的な体位の特徴について確認し、疾病・障害や治療により安静を強いられている患者についてはどうか考えるよう指導する。

	<p>姿勢・体位と運動に関わる課題を追究し、健康的な生活を目指して改善しようとしている。</p>	<p>・自己の生活の中での姿勢、体位、運動に関する課題とその具体策について、ワークシート3の 〇〇 に、自分の考えに加え自分で調べた内容を記入している。</p>	<p>・追究意欲が低かった理由を考えさせるとともに、課題の追究方法についてアドバイスをし、追究しようとする態度を育てる。</p>
	<p>対象の状態に応じた姿勢・体位と運動の援助技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的態度を身に付けている。</p>	<p>・ボディメカニクスの原理を踏まえ、対象の状態に応じた安楽な体位及び良肢位を保持するための方法について、ワークシート6の 〇〇 に、自分で調べて実践したことも加えて記入している。</p> <p>・安全・安楽を配慮した体位変換の実習について、ワークシート7の 〇〇 に、実施した内容に加え自分で調べたことや、体位変換の工夫につながる内容を記入している。</p> <p>・安全・安楽に配慮した移動と移送の実習について、ワークシート8の 〇〇 に、実施した内容に加え自分で調べたことや、移動・移送の援助の工夫につながる内容を記入している。</p>	<p>・ボディメカニクスの原理を復習させ、工夫の仕方の例を示して、意欲を高める。</p> <p>・視聴覚教材等で学習した方法を復習させ、それをどのように実践したらよいかをアドバイスし技術の習得に意欲的な態度を育てる。</p> <p>・視聴覚教材等で学習した方法を復習させ、それをどのように実践したらよいかをアドバイスし技術の習得に意欲的な態度を育てる。</p>
イ 思考・ 判断	<p>姿勢・体位と運動に影響を及ぼす因子と援助の必要性について科学的根拠を基に思考を深めることができる。</p>	<p>・姿勢・体位と運動について、ワークシート3の 〇〇 に、自己の生活上の課題を具体的にあげ、健康的な生活に改善するための方法を科学的根拠をもって論理的に考察し記入している。</p> <p>・疾病・障害や治療により安静を強いられる患者の心身の苦痛や障害について、ワークシート5の 〇〇 に、自らの体験だけでなく、人体の構造と機能等の既習内容との関連を踏まえて論理的に考察した内容を記入している。</p> <p>・患者の状態に応じた運動の必要性和看護者の役割について、ワークシート5の 〇〇 に、科学的根拠に基づいて患者の状態と援助の必要性を関連付けて考察した内容を記入している。</p>	<p>・日常生活の場面を具体的に提示し、課題を見付けるための視点を与えたり、課題解決のための方法には何があるのか教科書や資料等から考えさせる。</p> <p>・自らの体験を振り返らせ、精神的・身体的側面から安静臥床による弊害についての学習のポイントをまとめさせる。</p> <p>・教科書や資料を活用して、疾病や障害等による患者の状態を具体的にイメージさせ、個々の状態に応じた援助の必要性を一つ一つ関連付けて考えさせる。</p>
	<p>安全と安楽に配慮し、対象の状態に応じた姿勢・体位と運動の援助の方法を判断し創意工夫することができる。</p>	<p>・ボディメカニクスの原理に基づいた、安全・安楽な体位と良肢位の保持の方法について、ワークシート6の 〇〇 に、人体の構造と機能等の既習内容との関連を踏まえて考察した内容を記入している。</p> <p>・対象の状態に応じた体位変換の方法について、ワークシート7の 〇〇 に、ボディメカニクスの原理やこの原理等を踏まえ、最適な体位変換の方法を選択するとともに、創意工夫した点を記入している。</p>	<p>・ボディメカニクスの原理と安楽な体位や良肢位の条件を確認した上で要点をノートにまとめさせ、その条件を満たすためにはどのような方法が良いかを具体的に考えさせる。</p> <p>・対象の状態を具体的にイメージさせ安全・安楽という視点から体位変換の方法のポイントを整理させる。また、資料等を活用したり、他者の意見や工夫を参考にさせたりして、創意工夫した方法を考えさせる。</p>
	<p>ボディメカニクスの原理に基づいて、安全</p>	<p>・評価表1の 〇〇 のチェック項目がすべて「できる」であり、ボディメカ</p>	<p>・評価表等により、何ができないのか確認し、視聴覚教材等で</p>

ウ 技能・表現	と安楽に配慮した姿勢・体位と運動の援助を行うことができる。	<p>ニクスの原理に基づく安楽な体位と良肢位を保持するための技術が正確かつ確実に身に付いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技テストの評価表2の～のチェック項目がすべて「できる」であり、安全と安楽に配慮した体位変換の技術が正確かつ確実に身に付いている。 ・評価表3の～，～のチェック項目がすべて「できる」であり、安全と安楽に配慮した移動及び移送の技術が正確かつ確実に身に付いている。 	<p>復習させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスの原理を確認し、原理が技術のベースになっていることを押さえた上で、安全・安楽という視点に立って技術のポイントを整理させる。 ・補習時間を設け、技術が確実に身に付くまで繰り返し練習させる。
	ボディメカニクスの原理に基づいて、対象の状態に応じて日常生活の自立に向けた姿勢・体位と運動の援助を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価表1の～のチェック項目がすべて「できる」であり、対象の状態に応じて安楽な体位と良肢位を保持するための方法を正確かつ確実に身に付けている。 ・実技テストの評価表2の～のチェック項目がすべて「できる」であり、対象の状態に応じて体位変換の方法を正確かつ確実に身に付けている。 ・評価表3の～のチェック項目がすべて「できる」であり、対象の状態に応じて移動及び移送の方法を正確かつ確実に身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価表等により、何ができないのか確認し、視聴覚教材等で復習させる。 ・対象の状態を具体的にイメージさせ、どのような方法が最も安全で安楽な方法であるかを考えさせながら援助方法を工夫させる。 ・補習時間を設け、技術が確実に身に付くまで繰り返し練習させる。
工 知識・理解	姿勢・体位と運動における生理的メカニズムと生体に影響を及ぼす因子に関する知識を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響とその因子、代表的な体位による生理的な特徴、ボディメカニクスの原理について、ワークシート1，2，4の各項目に、姿勢・体位と運動が人間の基本的な欲求であることを具体的ななかかわりを取り上げてまとめている。 ・疾病・障害や治療により安静を強いられる患者の姿勢・体位と運動が生体に及ぼす影響について、ワークシート5の～，～に、心理的，社会的な側面から捉えたことがらを取り上げてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢・体位と運動における生理的特徴と影響を及ぼす因子について理解させるため、自らの日常生活での体験を整理させ、ボディメカニクスの原理に結び付けていることを指導し、まとめさせる。 ・安静を強いられることによる生体への影響について理解させるため、自らの日常生活での体験を整理させ、人間の生理的欲求との関連を指導し、まとめさせる。
	姿勢・体位と運動の意義と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病・障害や治療により安静を強いられる患者における姿勢・体位と運動の意義について、ワークシート5の～に、生理的メカニズムと関連させ、具体例を示してまとめている。 ・安静臥床による弊害と結び付けて患者の心身の状態が理解でき、それに応じた援助の必要性の明確な根拠及び看護者の役割を的確に小テストに解答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢・体位と運動の意義を理解させるため長時間の同一体位や安静臥床の弊害を整理させる。そこから患者の心身の状態を推論できるように助言し、まとめさせる。
	姿勢・体位と運動の援助方法の原理・原則を科学的に理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・安楽な体位と良肢位を保持するための工夫について、ワークシート6の～に、ボディメカニクスの原理に基づいて 	<ul style="list-style-type: none"> ・安楽な体位，良肢位の科学的な根拠を理解させるために、ボディメカニクスの原理を復習さ

る。	<p>た具体的な援助方法を、対象の状況に応じて安全・安楽に配慮した方法と関連付けてまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換の方法について、DVDなどの視聴覚教材を見て、ワークシート7の に、対象の状態に応じて、ボディメカニクスの原理に基づいた正確な原則をまとめている。 ・移動・移送の方法について、DVDなどの視聴覚教材を見て、ワークシート8の に、対象の状態に応じて、ボディメカニクスの原理に基づいた正確な原則をまとめている。 	<p>せ、実習の振り返りをさせながら整理させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換の援助方法は科学的な根拠の基に原理・原則が成り立っていることを理解させるために、ボディメカニクスの原理を復習させ、実習の振り返りをさせながら整理させる。 ・移動・移送の援助方法は科学的な根拠の基に原理・原則が成り立っていることを理解させるために、ボディメカニクスの原理を復習させ、実習の振り返りをさせながら整理させる。
----	--	--

(注)「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてについては、授業中適宜行ったり、授業後において行ったりする。

5 観点別評価の総括

(1) 総括の方法

単元の観点別評価の総括を行う方法としては、学習活動における具体の評価規準に照らして、学習活動における評価の視点ごとにA、B、Cの3段階で評価を行い、それを総括して観点ごとにA、B、Cの判定をする。

総括する具体的な方法として、A、B、Cの個数や割合に基づく方法やA、B、Cを数値に換算して集計する方法が考えられる。

ここでは1次から5次までの各次程ごとに、学習活動における具体の評価規準により評価を行い、得られた評価A、B、Cの総数と割合で総括する方法を例として示す。その際、同一の評価規準による評価が複数の次程において得られる場合があるが、評価機会ごとに得られた評価のすべてを同じ重みとして、次の考え方により総括する。

- ア Cが一つもなく、Aが6割以上の場合はAとする。
- イ Cが4割以上の場合はCとする。
- ウ ア、イ以外の場合はBとする。

この教科は人々の健康、人々の生命に関する内容を扱うものであり、様々な対象者に対し一人一人に対応できる知識と高度な看護技術を習得し、さらに看護職の基盤である看護観や職業観及び生命に関する倫理観を育成し、自ら判断し行動できる力を育成するものである。このような教科の特殊性から、それぞれの観点別評価をAと判断するには、Cが一つもないことや評価個数全体に対するAの割合を6割以上とすることは妥当であると考えた。また、評価個数全体に対するCの割合が4割を超える場合には、たとえ他のすべてがAと評価されたとしても、評価の総括はCと判断することも同様に妥当であると考えた。

(2) 観点別評価の総括例(生徒Aさんの場合)

観点 \ 次程	1次	2次	3次	4次	5次	Aの数	Bの数	Cの数	総括
ア 関心・意欲・態度	A A	A B	A	B	A	5	2		A
イ 思考・判断	B	A	A	B		2	2		B
ウ 技能・表現			A A	A B	C	3	1	1	B
エ 知識・理解	B A	A A	B	B	A	4	3		B

この外にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

6 参考資料
(1) ワークシート 1

姿勢・体位と運動について考えてみよう。

私たちの生活の中で姿勢・体位と運動はどのような意義があるか考えてみよう。

人間にとってよい姿勢をとるといことはどのような意味がありますか。

人間にとってよい体位をとるといことはどのような意味がありますか。

人間にとって運動をするといことはどのような意味がありますか。

生活を振り返り姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響にはどのようなものがあるかあげてみよう。

学習したことから姿勢・体位と運動の意義と健康に及ぼす影響についてまとめましょう。

実験してみましょう。

健康な若者は同一体位をどのくらいの時間耐えられるでしょうか。また、同一体位をとり続けることによって、どのような苦痛を感じるでしょうか。やむを得ず、同一体位をとり続けなければならないとき、どのような対策を取ればよいか考えてみよう。

	仰 臥 位	側 臥 位	腹 臥 位
そろそろつらいと感じ始めた時間			
耐えられずに体位変換した時間			
どの部分に苦痛を感じたか。			
どのような対策をすれば、苦痛を軽減できるか。			

(2) ワークシート 2

教科書や資料などで調べたことを基に表中の体位の特徴をまとめましょう。

体 位		利 点	欠 点
立 位			
座 位	長 座 位		
	端 座 位		
	椅 座 位		
	半 座 位		
臥 位	仰 臥 位		
	側 臥 位		
	腹 臥 位		

(3) ワークシート 3

自分の生活を振り返ってみよう。

姿勢・体位と運動に関して健康的な生活を送るために日頃から留意していることを書きましょう。

--

姿勢・体位と運動に関して自分の課題となることは何ですか。また、その状態を続けているとどのような弊害があると思いますか。

課題となること	健 康 へ の 影 響

その課題を解決するためにはどのような方法が考えられますか。

--

課題を解決するために自分で調べたことを書きましょう。

--

(4) ワークシート 4

ボディメカニクスの原理についてまとめましょう。

(5) ワークシート 5

病気や治療のために同一体位をとり続けなければならない患者の気持ちを考えてみましょう。

安静を長時間続けていると、どのような弊害が起こるでしょうか。

安静臥床による弊害を防ぐためにはどのような方法が考えられますか。

患者の状態に応じて運動を行う必要性は何か考えてみましょう。

患者の状態に応じて運動を行う上での看護者の役割について考えてみましょう。

(6) ワークシート6 (実習ノート)

安楽な体位の工夫と良肢位の保持

実習目標 看護用品等を活用し、ボディメカニクスの原理に基づき、体位に応じた安楽な体位を保持するための工夫をすることができる。
看護用品等を活用し、ボディメカニクスの原理に基づき、体位に応じた良肢位を保持するための工夫をすることができる。

実習日時 月 日 限

実習したこと

1) 安楽な体位を保持するための工夫 (何のために何をを用いてどのようにしたか)
仰臥位の場合

側臥位の場合

腹臥位の場合

2) 良肢位を保持するための工夫 (何のために何をを用いてどのようにしたか)

感想

< 看護者として >

< 患者として >

(7) ワークシート7 (実習ノート)

体 位 変 換

実習目標 ボディメカニクスの原理を用いて、患者の体位変換を安全・安楽に行うことができる。

実習日時 月 日 限

実習したこと(ポイントと根拠を踏まえて)

- 1) 患者への説明
- 2) 実施前・中・後の観察
- 3) 環境の準備
- 4) 仰臥位から側臥位への変換
- 5) 側臥位から仰臥位への変換
- 6) 側臥位から腹臥位への変換
- 7) 腹臥位から側臥位への変換

感想

<看護者として>

<患者として>

実習の体験を基に次の点について考えたことを書きましょう。
安全への配慮としてどのようなことを行ったらよいか。

患者に不安な気持ちを抱かせないためにはどのようにしたらよいか。

患者の苦痛を最小限にするにはどうしたらよいか。

意識のない患者への説明はどうしたらよいか。

体格のよい患者の体位変換をするにはどうしたらよいか。

患者の自立を促す援助とはどのような援助か。

(8) ワークシート 8

移 動 と 移 送

実習目標 患者を安全にベッドと車いす，ベッドとストレッチャー間を移動できる。
患者の安全・安楽を意識して移送できる。

実習日時 月 日 限

実習したこと（ポイントと根拠を踏まえて）

1) 使用する輸送機器の準備

<車いすの点検のポイント>

<ストレッチャーの点検のポイント>

2) 患者の準備

患者の状況の確認（確認事項）

実施前の観察（観察項目・観察結果から判断すること）

3) 患者への説明

4) 環境の準備

5) 車いすへの移動と移送

ベッドから車いすへの移動

<車いすとベッドとの位置関係，その根拠>

車いすによる移送

車いすからベッドへの移動

6) ストレッチャーへの移動と移送

ベッドからストレッチャーへの移動

ストレッチャーによる移送

ストレッチャーからベッドへの移動

7) 実施中・後の観察のポイント

8) 後始末

9) 報告・記録

感想

< 看護師として >

< 患者として >

実習の体験を基に次の点について考えたことを書きましょう。

1) 車いすへの移動，車いすによる移送の場合

患者を端座位から立位にする際，患者の安全を守るために，患者の体格によって援助の方法がどのように違ってくるか。

車いすで坂を下る時はどのようにすればよいか。

車いすで段差を越える時はどのようにすればよいか。

患者の自立を考えた援助とはどのような援助か。また，具体的にどうすればよいか。

2) ストレッチャーによる移送の場合

坂を上る時，坂を下る時はどのようにすればよいか。

(9) 評価表 1

[安楽な体位と良肢位]

チェック項目		できる	だいたいでいける	努力を要する
実施前に患者の観察をすることができたか。	顔色			
	表情			
	眩暈の有無			
	嘔気の有無			
患者に分かりやすく説明し、協力を得ることができたか。				
環境の準備をすることができたか。	ベッド周りの物品をベッドから離す。			
	掛け物を整える。			
	ベッドを水平にする。			
	ベッドの高さを調整する。			
カーテン等を使用して患者のプライバシーに配慮することができたか。				
ボディメカニクスの原理を活用することができたか。	対象に近づく。			
	患者の体を小さくまとめる。			
	支持基底面を広くとる。			
	膝を曲げ重心を低くする。			
	大きい筋群を使う。			
	水平移動、回転、回旋の活用			
< 拘縮の発生が予測される場合・仰臥位 >				
基底面が最も広く安定感をとることができたか。				
関節の拘縮の起こりやすい部分を良肢位に保つことができたか。				
臓器の機能負担は最小限に保つことができたか。				
患者に無理な姿勢をとらせずゆっくりと行うことができたか。				
< 拘縮の発生が予測される場合・側臥位 >				
上側になる上肢・下肢の重さが下側になる部分にかからないようにできたか。				
臀部を引いて「く」の字の体位にし、基底面を広くして安定させることができたか。				
臓器の機能負担は最小限に保つことができたか。				
患者に無理な姿勢をとらせずゆっくりと行うことができたか。				

(10) 評価表 2 (実技テスト)

[体位変換]

チエック項目		できる	だいたいでいける	努力を要する
実施前に患者の観察をしたか。	顔色			
	表情			
	眩暈の有無			
	嘔気の有無			
患者に分かりやすく説明し、協力を得たか。				
環境の準備ができたか。	ベッド周りの物品をベッドから離す。			
	掛け物を整える。			
	ベッドを水平にする。			
	ベッドの高さを調整する。			
カーテン等を使用して患者のプライバシーに配慮したか。				
ボディメカニクスの原理を活用したか。				
< 仰臥位から側臥位へ体位変換 >				
患者の顔を体位変換する方向に向けたか。				
患者の下側になる側の上腕部を患者の体幹から離れたか。				
患者の肩甲帯と骨盤帯(または肘関節と膝関節)に手を当てて側臥位にしたか。				
患者に無理な姿勢をとらせずゆっくりと行うことができたか。				
体位変換後身体を安定させ良肢位をとったか。				
< 仰臥位から腹臥位へ体位変換 >				
患者の手前の上肢を顔の横を通して頭部側に上げ、反対側の上肢を腹部にのせたか。				
反対側の下肢を手前側の下肢の上に重ねたか。				
反対側の肩と腰部を支え静かに手前に回転させたか。				
患者の顔を横向きにしたか。				
肩関節を外転位、肘関節を屈曲位にし、手掌を下に向けて自然な形に整えたか。				
頭部の後屈や胸部の圧迫がないようにし、患者にとって安楽な体位を整えたか。				

(11) 評価表 3

[移動と移送]

チエック項目		できる	だいたいでいける	努力を要する
実施前に患者の状況を確認し、援助方法を選択したか。				
車椅子の点検をしたか。				
患者に分かりやすく説明し、協力を得たか。				
実施前の患者の観察をしたか。				
患者への配慮をしたか。	保温への配慮			
	プライバシーの保護			
環境の準備をしたか。	ベットのストッパーと高さ			
	車椅子のはいるスペース			
	安全な履き物の用意			
座位から端座位，端座位から立位への体位変換はスムーズにできたか。	患者と看護者双方のボディメカニクスを考慮したか。			
	起立性低血圧への配慮をしたか。			
ベットから車椅子への移乗はスムーズにできたか。	ベットと車椅子の位置関係は適当だったか。			
	患者の動きについて説明しながら援助したか。			
	患者と看護者双方のボディメカニクスを考慮したか。			
	腰掛けたときの患者の姿勢をチェックしたか。			
車椅子を動かすときの配慮をしたか。	言葉をかけたか。			
	動き出すときのスピードは適当だったか。			
輸送中の車椅子の操作は適当だったか、患者への配慮をしたか。	段差の乗り越え方や斜面での操作は原則を守っていたか。			
	寒さに配慮したか。			
	言葉かけをしたか。			
車椅子からベットへの移乗はスムーズにできたか。				
寝衣や掛け物を整えたか。				
実施中、後の観察をしたか。				
環境の復元をしたか。				
次回の使用に備えて車椅子の整備点検したか。				
適切に報告・記録ができたか。				

(12) 生徒の自己評価表

生徒の自己評価は評価の総括に直接使用することはないが、生徒に自己評価表として示すことにより、学習目標が明確になるとともに、自己評価を実施することにより自己の学習の到達度の確認が可能となり、より高い学習目標の到達の目安とすることができる。また、教師が生徒の自己評価の結果を確認することにより、個々の生徒の学習状況を的確に把握したり、教師の評価表との相違点などからその生徒の課題を見付け出し、指導との一体化を図ることができるものである。自己評価表の一例を次に示す。

[安楽な体位と良肢位]

チエック項目	で き る	だ い た で い き る	努 力 を 要 す る
実施前に患者の観察をすることができる。 ・顔色 ・表情 ・眩暈の有無 ・嘔気の有無			
患者に分かりやすく説明し、協力を得ることができる。			
環境の準備をすることができる。 ・ベッド周りの物品をベットから離す。 ・掛け物を整える。 ・ベッドを水平にする。 ・ベッドの高さを調整する。			
患者のプライバシーに配慮することができる。 ・カーテン等の使用			
ボディメカニクスの原理を活用することができる。 ・対象に近づく。 ・患者の体を小さくまとめる。 ・支持基底面を広くとる。 ・膝を曲げ重心を低くする。 ・大きい筋群を使う。 ・水平移動、回転、回旋の活用			
< 拘縮の発生が予測される場合・仰臥位 >			
基底面が最も広く安定感をとることができる。			
関節の拘縮の起こりやすい部分を良肢位に保つことができる。			
臓器の機能負担は最小限に保つことができる。			
患者に無理な姿勢をとらせずゆっくりと行うことができる。			
< 拘縮の発生が予測される場合・側臥位 >			
上側になる上肢・下肢の重さが下側になる部分にかからないようにできる。			
臀部を引いて「く」の字の体位にし、基底面を広くして安定させることができる。			
臓器の機能負担は最小限に保つことができる。			
患者に無理な姿勢をとらせずゆっくりと行うことができる。			